

しまくとぅば普及促進事業

うちなーぐち教本

うちなーぐちでーびる



北中城村

特定非営利活動法人あやのふあ

北中城村の

(でんしょうばなし)

伝承話

(2012年版 北中城村村勢要覧より)

ストーリーから見えてくる歴史のひとコマ。
時代を彩るさまざまな場面や
懐かしい村の様子をイメージしながら
物語を楽しんでみませんか。



菟道・大城

ちよーでーぶらく

兄弟部落のお祭り

菟道・大城の「旗スガシー」は、毎年旧暦の7月17日に両集落共同により行われる県内でも珍しい祭事です。

菟道が「天下泰平遊楽」、大城が「飛龍昇天」の旗頭を先頭に、それぞれ「チヤイファー」というかけ声にあわせてお互いの字の聖地などを巡拝しながら集落内を練り歩きます。巡拝が終わると、両集落の境（現在の兄弟広場）に集まり、一人ずつ代表を出して「兄弟棒」を演じます。

両集落は、むかしから「兄弟部落」とも呼ばれていて、このように祭祀上でも深いかわりを持っています。

熱田

ひれんものがたり

熱田マーシリーの悲恋物語

熱田から国道329号を南へ向かうと、中城村との境の手前左側に琉球石灰岩の大きな岩があります。この岩が熱田マーシリーです。

伝説によると、その昔、具志頭間切（ぐしちゃんまぎり）の白川桃原樽金（しらかわとうばるたるがにー）と勝連間切浜村（かつれんまぎりはまむら）の浜川真鍋樽（はまがわまなんだる）がお互いに恋したが、結ばれることなく二人とも恋焦がれ死に、遺言によって一緒に埋葬されたといわれています。



安谷屋

わかまつ
「若松くん」

北中城村のマスコットキャラとして
おなじみの若松くん。

本来は、「中城若松」や「安谷屋の若松」
などと呼ばれ、組踊『執心鐘入（しゅ
うしんかねいり）』では首里に奉公する
主人公のモチーフとなりました。

安谷屋の若松公園内には、「若松の屋
敷跡の火の神」や「中城若松の墓」など
の若松にまつわる文化財が残されてい
ます。



渡口

わなま
和仁屋間のテラ



渡口にある祠のことで、地元では
「浜崎（はまさち）のテラ」などとも
呼ばれています。

祠の中に祀られている霊石（ビジ
ュル）は、ボージャーブトウチ（赤
子の仏）、クワンマガハンジョウヌ
ウカミ（子孫繁栄の神）などと呼ば
れ、子宝に恵まれない婦人などが
参拝に訪れるほか、旅の安全を祈願
する人もいます。



仲順

おやこうこう うた
親孝行を謡った「仲順流り」

「仲順流り」は、県内各地のエイサーでよく用いられる歌ですが、
親孝行を主題にした短編劇がもとになっています。

内容は、仲順大主が3人の息子の心を試そうと、それぞれの夫婦を
呼び、食べ物のがのを通らないので乳を飲ませてくれと頼みます。

長男、次男夫婦は我が子が大切だからと断りましたが、三男夫婦は、
親孝行は二度とできないから、我が子をすてる決心をし、大主に指示
された場所を掘ると、黄金が大量に出てきました。それで大主は三男
夫婦を跡継ぎにする。という話です。仲順には今でも仲順大主の墓が
残っています。

喜舎場

喜舎場の由来

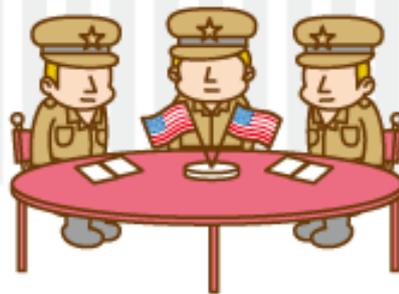
喜舎場のもともとの発祥の地は、現在のコストバスタホテルの南側斜面付近であったと伝えられています。

琉球王府がまとめた伝説集「遺老説伝（いろせつでん）」（1745年）には、「往昔（おうじゃく）、喜舎場公なる者有り、此の邑（このむら）を創建す。因りて喜舎場村と名づく。」とあり、一人物の名前がそのままラの名前となっています。

喜舎場公の墓



我、喜舎場公ナリ



ライカム交差点の「ライカム」ってどういう意味？

国道330号と県道85号線が交わる「ライカム交差点」の「ライカム」は、英語で表記すると「RYCOM」となります。これは、「Ryukyu Command（琉球軍司令部）」を略したもの。沖縄戦終結後、この近くにアメリカの琉球軍司令部が置かれたことから、「ライカム」と呼ばれるようになったのです。

菟道

犬が見つけた湧き水

タチガーは、菟道の北側の崖にある湧泉です。

むかし、水に濡れた犬が出入りしている小さな穴を見つけた人がその穴を掘り下げていったところ、水が流れ出てきたのが始まりだそうです。

タチガーは、平成20年6月に「菟道・大城湧水群」（全10カ所）のひとつとして、「平成の名水百選」に選ばれています。





んかーしんかし

昔 昔、あたるくとう。

ある村んかい 仲 順 大主でいる人 勝いぬ 物知り 長者ぬめんせーびーたん。

妻 や 早 死し、大主や男の子 三人 立派に 育うわーさびたん。

三人ぬ男の子 立身してみてい 孫 達んできてい、幸しに暮らちよーいびーたん。

大主や、だんだん 年 取てい 自分ぬ財産や ちゃーなていいいちゆがやーでいち、

肝がかい そーいびーたん。

大主や、三人ぬ男の子から 一番親思いる子んかい

財産の 一譲れーやーんでい 考げーてい、

子供達 座敷んかい呼でい

「実 今日や 貴方達んかい 頼み事ぬあん」でいち話さびたん。

昔昔のお話です。ある村に仲順大主という、とても徳の高い(立派な)長者がいました。

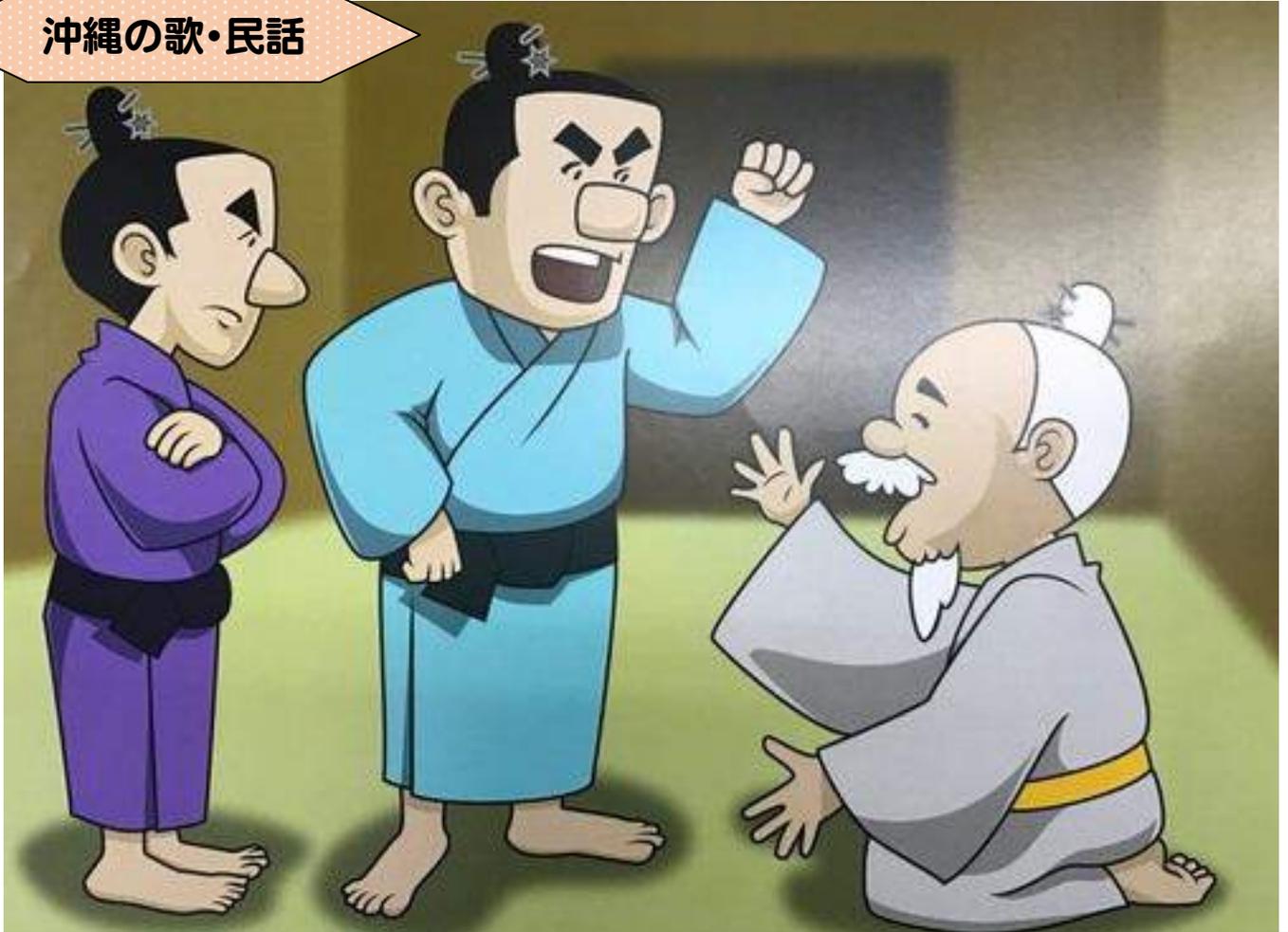
奥さんを早くに亡くした大主は、三人の男の子どもを立派に育てました。

三人はそれぞれ結婚し、孫も出来て、幸せに暮らしておりました。

大主はだんだん年を取り、自分の財産の行方の事が気になりました。

大主は、三人の男の子の中から、一番親思いの子に自分の財産を譲りたいと考え、

子供達を座敷に呼び、「実はお前達に頼み事がある」と話し始めました。



(X) すー どうしとう ちかぐる どうー よー むぬ ぬーでう う
 「主やくぬぐとう年取てい 近頃んせー身体ん弱くなてい 御飯ん 喉 から落ていらん。(X)
 なかぬち うまー あか ぐわ ちー すだ
 長命や ねーらんでい思りーん。赤ん子や、母乳びけーんし育ちゆん。
 むぬ どうすい ちー うじにー うまー
 御飯んかまらん年寄んかいや、うぬ母乳ぬ ぬーやかん栄養んでい思りーん。
 いったーわらびんちやー ぬ ちー
 やくとう貴方子供 達んかい飲まちよーる母乳や、
 ちゆう むる わん ぬ くい
 今日から全部我にんかい飲まち呉らんなー。」
 くらひじ わらびんちやー うぶすー はな ちじ
 あまりぬ事に返事ならん子供達。大主や、話し続きたん。
 うやうむ あかし いったーな ぐわ し
 「親思いる証とうし 貴方産し子 捨てていてとうらし・・・」
 ちやくし じ な うや すー ゆ とうし すー くらば
 長男ん、次男ぬん「アキサミヨー！ たんぬ親やが。」「主や寄たる年。主ぬ言葉んでい
 うまー ンまがし ながいち
 思らん。孫捨ててい 長生ち しーぶさんでいせー・・・」
 たい くさみ じゃしち ん
 (X) 二人や 怒 ちやーに、しぐ座敷から出じてい 行じやん。(X)

「私も年を取り、近頃は身体も弱くなって御飯も喉から落ちなくなってきた。もう長くは生きられないと思う。
 赤ちゃんは、母乳だけで育つ。御飯も食べきれない年寄りには、母乳が何よりの栄養だと思う。
 だから、お前達の子供に飲ませている母乳は、今日からは全部私に飲ませてくれないか」
 あまりの事に返事もできない子供達をよそに、大主はなお話し続けました。
 「親思いの証として、お前達の子供を捨ててもらいたい・・・」
 あたりまえの事だが、長男も、次男も怒って、「は～～あ！ なんという父親だ。」
 「長者であるお父さんの言葉とも思えない。自分の孫を捨てさせて長生きしたいとは・・・」
 二人は怒って、すぐさま、座敷から出ていってしまいました。



座敷んかいや、大主とう 三男びけーん ないびたん。
 三男のー うっちんとーし、フトウフトウーさがな一言やびたん。
 「主ん 子ん 大切やいびーしが、子や くぬ先 またん 天から授かゆる事ん あんでい
 思りやびーん。親や またとーうがまらん事やいびーん。主ぬ言みせーる 通いさびーん」
 涙落 ちよーる 三男向かてい、「ゆーわかてい くだん。かふーしどー。
 あんせー、東森 ぬ 三本松 ぬ 下んかい 穴堀てい、早く埋みていくー」
 くぬぐとうし、三男のー自分ぬ子 埋みる事になたん。
 さてい、くまや村はじりぬ、三本松 ぬ 下、
 三男のー 赤ん子 抱ちよーる 妻 側んかい 立たち、涙落 さがな一穴堀い 始 たん。

座敷には、大主と三男だけになりました。
 黙ってうつむいていた三男は、震える声で言いました。
 「お父さんも 子供も どちらも大切ですが、子供はこの先また天から授かる事も出来ると思います。
 ですが、お父さんはこの世にたった一人だけで、他の誰にも変えられません。お父さんがおっしゃる通りに致します」
 涙を流している三男に向って、
 「良く分かってくれた。ありがとう。それでは、東の森にある三本松の下に穴を掘って、早く埋めてきなさい！」
 このようにして、親思いの三男は自分の子を埋める羽目になってしまいました。
 さて、ここは村はずれにある、三本松の下赤ちゃんを抱いた妻を側に立たせて、
 三男は涙をポロポロ流しながら、穴を掘り始めました。



三男の一、一 鍬 掘てい涙 落ち、

三 鍬 四 鍬 とう胸んはりさきーる思いし、 掘い進みたん。八 鍬 掘い 落ちやれー、

「カチーン！」 鍬 ぬ先、物に当たん。

小 瓶 ぬ 埋まとーたん。ふた開きてい 見ちやれー アキ アキ アキサミヨー！

なんと黄金ぬ満ちやかーん 入ちよーいびーたん。

二人や 瓶 持ち家んかい帰やびたん。

仲 順 大 主や涙ぐるぐるそーてい 三男とう嫁ぬ手取てい 頭 下ぎてい 言やびたん。

三男は、一鍬掘っては涙を流し、

三回、四回と、胸が張り裂けんばかりの思いで、 鍬を振り進めました。

八回目に鍬を掘り落とした時、「カチーン！」と鍬の先が何か硬い物に当たりました。

そこには、小さな瓶が埋まっていた。ふたを開けて、びっくり。アキサミヨー！

なんと、瓶の中には 黄金が一杯詰まっていた

二人は瓶を持って、家に帰ってきました。

仲順大主は泣き顔で迎え、三男と嫁の手を取り、頭を下げて言いました。



「先程^{さちぶどう}や心^{くくる}にん無^{ねー}ん事^{くとうい}言^いち、くねーていとうらし。

くぬ^{くがに}黄金^{いったー}や貴^{ゆじ}方^{ちむ}んかい 譲^{くくる}ゆん。肝^{むっ}じゆらさる心^{むっ} いちまでいん持^{むっ}ち、

家族^{やーにんじゆてーしち} 大切^{たぬ}に し^しく^しい^しり^しよー。頼^{たぬ}だ^{たぬ}ん^{たぬ}どー」

仲^{ちゆん}順^{じゆん}大^う主^{ふすー} ぬ^{あとう} 後^{さん}ん、三^う男^{やう}の^わ一^{くくる}親^{わし}思^しい^しる^し心^し 忘^{くくる}らん^{くくる}ぐ^{くくる}と^{くくる}う、

いちまでいん^{やーにんじゆ} 家^{やーにんじゆ}族^{やーにんじゆ} かな^なが^なな^なー^なと^なう^な暮^{くら}ち^{くら}や^{くら}ん^{くら}で^{くら}い^{くら}ぬ^{くら} 事^{くとう}や^{くとう}い^{くとう}び^{くとう}ー^{くとう}ん。

七^{しち}月^{ぐわち} 七^た夕^な 中^{なか}ぬ^{なか}十^{とう}日^か……

エイ^{エイ}サー^{サー} エイ^{エイ}サー^{サー} ヒヤ^{ヒヤ}ル^ルガ^ガ エイ^{エイ}サー^{サー} スリ^{スリ} サ^サー^{サー}サ^サー^{サー} スリ^{スリ}

今^{なま}ち^{なま}きて^{なま}い、エイ^{エイ}サー^{サー}ぬ^{なま}中^{なま}う^{なま}て^{なま}い^{なま}歌^{うた}い^{うた}語^{かた}い^{かた}継^ちが^ちつ^ちと^ちー^ちる

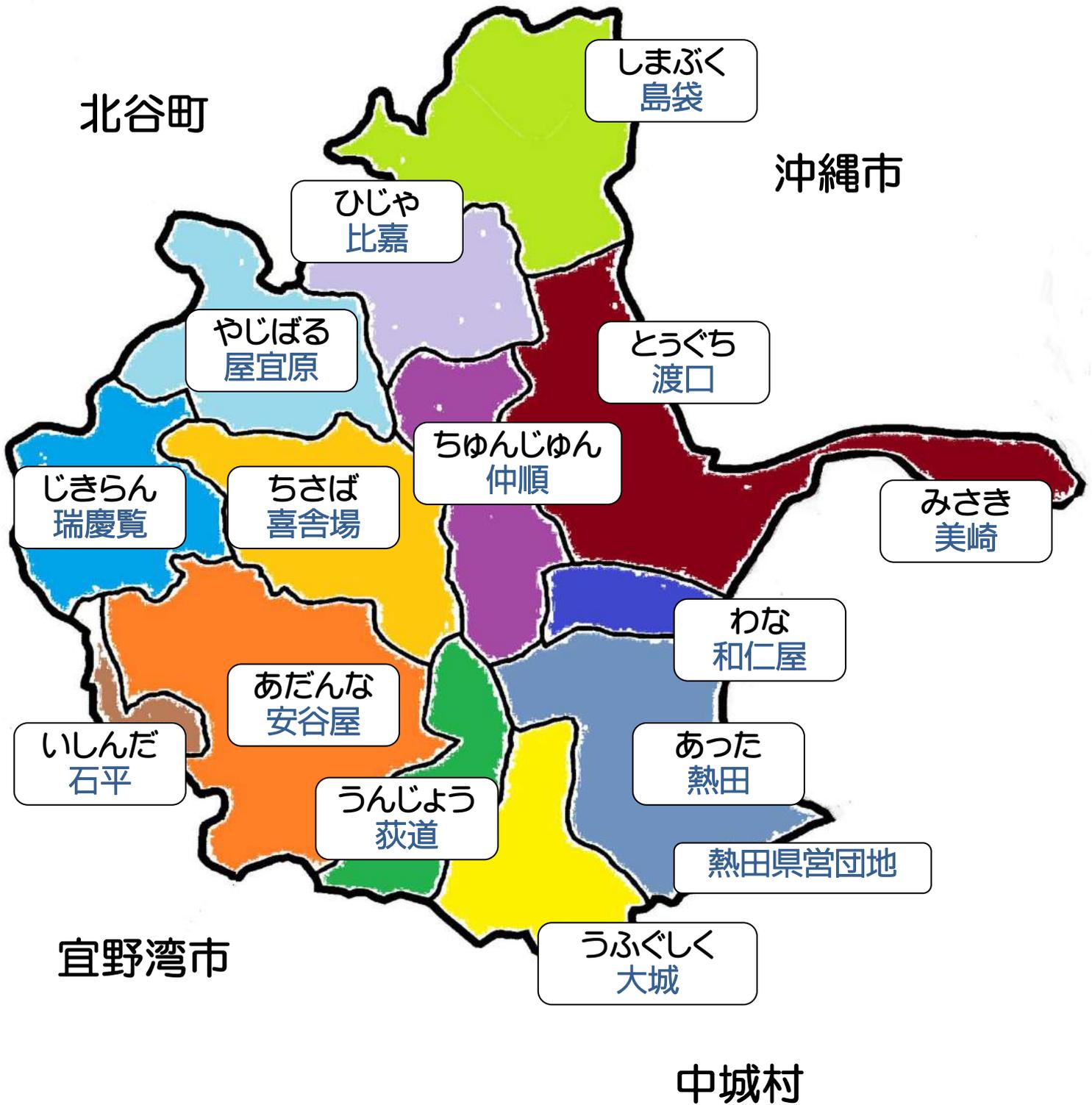
「仲^{ちゆん}順^{じゆん}大^う主^{ふすー}・仲^{ちゆん}順^{じゆん}流^{なが}り^{なが}」由^ゆ来^{れい}ぬ^{れい}話^{はな}し^{はな} や^{はな}い^{はな}び^{はな}ー^{はな}たん

「先程は心にも無い事を言って、すまなかった。許してくれ。この黄金は、お前達に譲ろう。優しい心を持ち続けて、家族を大切にしてくれ、頼んだよ」
仲順大主が亡くなった後も、三男は親を思う心を忘れずに、いつまでも家族仲良く幸せに暮らしたという事です。
今でも、エイサーの中で、
七月 七夕 中ぬ十日……

エイ^{エイ}サー^{サー} エイ^{エイ}サー^{サー} ヒヤ^{ヒヤ}ル^ルガ^ガ エイ^{エイ}サー^{サー} スリ^{スリ} サ^サー^{サー}サ^サー^{サー} スリ^{スリ}

と歌い、語り継がれている「仲順大主・仲順流り」由来のお話でした。

北中城村の部落名



北中城村の部落名(小字)^{こあざ}

喜舎場	仲順	熱田	和仁屋
キシヤババル	チュンジュンバル	アガリバル	メーバル
アガリバル	イリバル	イリバル	ハマダバル
アガリメーバル	メーバル	メーイーバル	クシバル
イリメーバル	アガリバル	イーバル	イーバル
アカタバル	クシバル	クシイーバル	ニシガニクバル
イリバル	イリシーガーバル	ケーマガーバル	フェーガニクバル
ニイバル	ミナミシーガーバル	ソーシバル	
タキンニーバル	キタシーガーバル	ナカザトウバル	
ケイガーバル	イーバル	タカチジバル	
イーバル		メーバル	
		マーシリバル	
		ハマバル	

比嘉
アガリバル
ウチバル
メーバル
イリバル

屋宜原
ヤジバル
アラカーバル
イリバル
イリメーバル
アガリメーバル

安谷屋
アガリンダカリバル
イリンダカリバル
メーバル
アカバタキーバル
イーバル
クマーラバル
カミグーバル
ヒージャーバル
カマシチャバル
アガリクシバル
イリクシバル
ジーマバル
カンヌミバル
ブウルバル
イリーバル
フルマイーバル
シュムガーラバル
イチマシバル

荻道
イリジョウバル
イリバル
メーバル
カミグーバル
ヒラッタバル
クシバル
ヒージャーバル
スクタバル

大城
ジョウダバル
ヌーリバル
メーバル
アガリバル
カージリバル
クシバル

渡口	島袋
トウグチバル	シマブクバル
クシバル	イリバル
イリジョウバル	サカペーバル
シチャバル	トウムンシャバル
メーバル	イーバル
イブサーバル	カマサバル
ヒナグーバル	クニンドウバル
シチャウチュウバル	ヤヒナーダバル
メーダバル	マーカーバル
ヒラタバル	アガリミーマガーバル
イーウチュウバル	イリミーマガーバル
ナカバル	アレーラバル
オウーイーバル	
オウナカバル	
オウシチャバル	

瑞慶覧	石平
ブラク	イリーバル
アガリメーバル	シュムガーラバル
イリメーバル	
イリバル	
ウフンダバル	
アガリクシバル	